

あいち農産物生産流通レポート

2026年1月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ あいち花マルシェ2025を開催しました	(園芸農産課) 1
・ 2024年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向	(食育消費流通課) 4
◎ 地域トピックス	
・ 「おかざき有機農業塾」の取組について	(西三河農林水産事務所) 6
◎ 東京レポート	
・ 年末に向けてキャベツの競合産地調査及び品質検討会を実施	(東京事務所) 7
◎ 東京都中央卸売市場における1月の主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所) 8
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の1月の見通し(県内市場)	(食育消費流通課) 11

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

あいち花マルシェ 2025 を開催しました

園芸農産課

愛知県では、日本一の花の生産を誇る「花の王国あいち」として、あいちの花の消費拡大を図るため、花を「見て・触れて・購入できる」県民参加型のイベント「あいち花マルシェ」を2020年度から開催しています。

2025年度は、本県に7月開業したIGアリーナのオープンを記念した名古屋ステージと、花の生産地に近い三河ステージの2ステージを開催しました。

1 開催概要

- (1) 名古屋ステージ
2025年10月4日（土）～5日（日）（2日間）
名城公園（名古屋市北区）
- (2) 三河ステージ
2025年11月15日（土）～16日（日）（2日間）
安城産業文化公園デンパーク（安城市）

2 名古屋ステージ

花マルシェの開催に先立ち、IGアリーナのプレオープンとして5月31日（土）、6月1日（日）に開催された「IGアリーナオープニング DAYs」内で装飾展示を行い、「あいち花マルシェ 2025」をPRしました。10月には、花マルシェをIGアリーナのある名城公園で開催し、あいちの花で彩りました。

○ IGアリーナ装飾展示（5月31日（土）、6月1日（日））

花に関心のある方だけでなく、スポーツに関心のある方からの注目も集めるよう、花で装飾した大きなバスケットボール及びバスケットゴールのフォトスポットを設置しました。

○ 花マルシェ（10月4日（土）、5日（日））

IGアリーナが、バスケットボールBリーグ所属の名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームアリーナとなることから、開幕戦に合わせて花マルシェを開催し、普段花に関心のない方にも興味を持っていただく、きっかけになりました。

(1) メインディスプレイ、フォトスポット

「スポーツ×あいちの花」をテーマに、花とバスケットがコラボしたメインディスプレイを設置しました。また、屋内には、ハロウィンを楽しんでいただこうと、フラワーパンプキンのフォトスポットを設置しました。

当日は生憎の天気でしたが、写真を撮る多くの方の姿が見られました。



フラワーバスケットボール



バスケットボールのフラワートロフィー

(2) 花マルシェ

県産の切花や鉢物を県内生産者や生花店等が販売しました。今年度初めて出店した、園芸系 YouTuber のブースには多くの方の来店があり、熱心に品定めをしていました。

(3) いけばな展示、体験教室

県産花きを使ったいけばな各流派の展示や、フラワーアレンジメントの体験教室が開催され、様々ないけばなが並ぶ様子に、来場者が感心する様子が見られました。



園芸系 YouTuber 浅岡園芸ブース



いけばな展示の様子

3 三河ステージ

会場では花の販売のほか、フラワーバレンタインや体験教室などを行いました。ワンワン Days も同時開催され、犬の散歩を楽しみながら、あいちの花を購入する方も見えました。

(1) 花マルシェ

県内や地元安城市の生産者、生花店等が、県産花きを販売しました。シクラメンやポインセチア、シンビジウムなどクリスマスから年末に向けて飾られる季節の花も販売されました。

(2) あいちフラワーコンテスト

花の出来栄を競うフラワーコンテストは、きく、スプレーぎく、ばら・洋花、鉢花・花苗、観葉植物、洋らん、和物の7部門に合計252点の出品がありました。



屋内出店の様子

(3) 花のディスプレイ

愛知県花き温室園芸組合連合会（花き連）きく部会、スプレーマム部会、カーネーション部会によるディスプレイが展示され、多くの方が写真に収めていました。

また、フローラルプレイスのイベント広場には、あいちの花のフラワーシャンデリアを設置し、登壇者や観客のみなさまに楽しんでいただきました。



あいちフラワーコンテスト展示の様子



花き連きく部会

(4) ステージイベント

学校法人さくら学園安城生活福祉高等専修学校の生徒らによるフラワーファッションショー等が行われ、花とファッションのコラボを楽しんでいました。

(5) 花の体験教室

「あいちの花」を使ったフラワーアレンジメントや寄せ植え、カラーリングマム作り等のワークショップが行われ、多くの方に楽しんでいただきました。また、クリスマス进行テーマにしたスワッグづくりなどの体験も行いました。



フラワーファッションショー



カラーリングマム作り体験

(6) 写生大会の展示

名古屋ステージで開催した、写生大会の絵の展示を行い、名古屋ステージで描いた自身の絵を観に来る親子の姿がみられました。

(7) ワンワン Days

犬のフォトスポットを設置し、愛犬と一緒に写真に収めていました。犬と一緒に花マルシェを楽しむことができ、とてもよかったとの感想がありました。



絵の展示



犬のフォトスポット

4 最後に

あいち花マルシェ2025には、5万人を超える多くの方に来場いただき、あいちの花の魅力を多くの方に感じていただくことができました。「花の王国あいち」として、今後も花のPRに努めてまいります。

2024 年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向

食育消費流通課

1 名古屋市中心卸売市場及び県内地方卸売市場の青果物について

(1) 2024 年の野菜及び果実取扱数量（表 1）

野菜の名古屋市中心卸売市場における取扱数量は 37 万 3 千 t（2019 年比 92.8%、2 万 9 千 t 減）、このうち県内産野菜は 5 万 9 千 t（同 86.9%、9 千 t 減）、県内産のシェアは、15.9%（2019 年から 1.0%減）でした。

一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 10 万 t（2019 年比 91.8%、9 千 t 減）、このうち、県内産野菜は 4 万 t（同 88.2%、5 千 t 減）、県内産のシェアは、39.5%（2019 年から 1.6%減）でした。

果実の名古屋市中心卸売市場における取扱数量は 8 万 9 千 t（2019 年比 91.0%、9 千 t 減）、このうち、県内産果実は 8 千 t（同 77.3%、2 千 t 減）、県内産のシェアは、9.2%（2019 年から 1.6%減）でした。

一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 3 万 1 千 t（2019 年比 77.1%、9 千 t 減）、このうち、県内産果実は 1 万 2 千 t（同 80.5%、3 千 t 減）、県内産のシェアは、39.6%（2019 年から 1.7%増）でした。

(2) 青果物の取扱数量における動向

県内地方卸売市場では、名古屋市中心卸売市場と比べ、果実の取扱数量の減少率が大きくなっています。その主な要因として、小規模農家の減少や、個人農家の販売先が多様化していることが考えられます。

表 1 県内の中央卸売市場および地方卸売市場における青果物の取扱数量

〔単位：万 t〕

区 分		2024年			2019年		
		全体	県内産	県内産 シェア	全体	県内産	県内産 シェア
名古屋市 中央	野菜	37.3	5.9	15.9%	40.3	6.8	16.9%
	果実	8.9	0.8	9.2%	9.8	1.1	10.8%
県内地方	野菜	10.0	4.0	39.5%	10.9	4.5	41.1%
	果実	3.1	1.2	39.6%	4.0	1.5	37.9%

(注) 表は小数点以下第 2 位を四捨五入しています。

2 県内地方卸売市場の花きについて

(1) 2024 年の切り花及び鉢物取扱数量 (表 2)

切り花の取扱数量は2億1千2百万本 (2019 年比 112.9%、2 千 4 百万本増)、このうち、県内産切り花は7 千 1 百万本で (同 96.9%、2 百万本減)、県内産のシェアは、33.5% (2019 年から 5.5%減) でした。

鉢物 (花壇用苗物等含む) の取扱数量は5 千万鉢 (2019 年比 86.4%、8 百万鉢減)、このうち、県内産鉢物は1 千 9 百万鉢 (同 86.7%、3 百万鉢減)、県内産のシェアは、38.0% (2019 年から 0.1%減) でした。

(2) 花きの取扱数量における動向

切り花の取扱数量は、市場全体では増加しているものの、県内産はやや減少していることがうかがえます。

鉢物の取扱数量は、市場全体、県内産ともに減少しています。

表 2 県内の地方卸売市場における花きの取扱数量

[単位：千万本、千万鉢]

区 分		2024年			2019年		
		全体	県内産	県内産 シェア	全体	県内産	県内産 シェア
県内地方	切り花	21.2	7.1	33.5%	18.8	7.3	39.0%
	鉢物	5.0	1.9	38.0%	5.7	2.2	37.9%

(注) 表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

「おかざき有機農業塾」の取組について

西三河農林水産事務所

岡崎市は、2024年3月にオーガニックビレッジ宣言を行いました。これに伴い同年9月からは有機農業に新たに取り組もうとする方を対象に、「おかざき有機農業塾（以下、農業塾）」を開講し、有機農業の社会的意義や魅力等が学べる機会を提供しています。

1 おかざき有機農業塾とは

40年以上有機農業を普及するため技術支援に取り組んできた公益財団法人自然農法国際研究開発センターから講師を招き、有機農業に必要な土づくりや病害虫の発生を抑える作付け体系の講義と実習を行っています。

農業塾は期間が1年間で、月2回のペースで開催されており、これまでに1期生17名が卒業し、現在は2期生15名が入塾しています。苗や肥料、資材、農機具等は塾側が用意しているため、受講生は気軽に通うことができます。「有機農業に取り組んでみたいが様々な情報が溢れており、どうやって始めればいいのか分からない」という方などが受講しています。

2 耕地生態系を生かした有機農業

講義は、地域の土壌の特徴や生態系、有機農業で生産した野菜の品質について理解を深め、実習では、地域に適した数種類の野菜や牧草を植え、収穫までの作業を体験します。作物と競合しない牧草や天敵、無害な昆虫を増やす多様な耕地生態系づくり、殺虫剤を使わずに虫害を予防する方法や、作業の工夫・作付け体系を学ぶことができます。

また、実習では受講生同士が協力し合い、声を掛けながら進めることで、自然と交流が生まれ、仲間づくりの場にもなっています。

卒業生からは「地元農林水産物への関心が高まり産地や生産者を意識して購入するようになった」、「卒業後、産直施設への出荷も目指していきたい」という声が寄せられています。こうした体験が有機農業や食への理解を深めるきっかけとなり、今後さらに多くの人が有機農業に取り組むことが期待されます。



有機農業に関する講義



ボカシづくりの実習

年末に向けてキャベツの競合産地調査及び品質検討会を実施

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場では本県産キャベツの入荷が年末年始に本格化します。このため、2025年12月9日(火)に、京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会会員(卸売会社12社)、JA愛知みなみ、JA豊橋、JAあいち経済連、本県東京事務所の職員が、競合産地である千葉県銚子市及び神奈川県三浦半島のキャベツの生育状況を調査しました。併せて、本県及び競合産地のキャベツの品質検討会も実施しました。

1 競合産地の調査

(1) 千葉県(銚子)

全体的にみて例年よりも収穫が進んでいました。

生産者からは、「2025年度作は、生育順調で病害虫の発生もない。ただし、12月上旬以降の気温低下により生育が停滞気味のため、年末にかけての出荷量は大きな増減がなく推移する見込み」とのことでした。



千葉県のキャベツほ場

(2) 神奈川県(三浦・横須賀)

当地区ではダイコンの収穫後にキャベツを定植するほ場が多いなか、ダイコンの収穫が遅れており、キャベツ苗の定植作業は12月上中旬が最盛期となる見込みでした。

JA職員からは、「年内のキャベツの収穫が遅れ気味で、例年のような出荷ピークに達していないため、年内の出荷量は少ない見通し」とのことでした。



神奈川県のキャベツほ場

2 品質検討会

葉の詰まり具合や固さの異なる冬系と春系キャベツについて、各産地の秀8玉/10kg・箱を無作為に抽出して調査しました。

(1) 冬系キャベツ

本県4産地、茨城県1産地の入荷物を調査しました。調査した中ではクレーム対象となるものは確認されず、総合的にみて、玉揃い、ボリューム、外葉等の品質は安定していました。重量はいずれの産地も規格をクリアしていましたが、乾燥と寒さの影響のためか、全体的に例年より軽い印象でした。また、一部の出荷物では、大きさが不揃いである、外葉が多い、という点が確認されました。



品質調査の様子

(2) 春系キャベツ

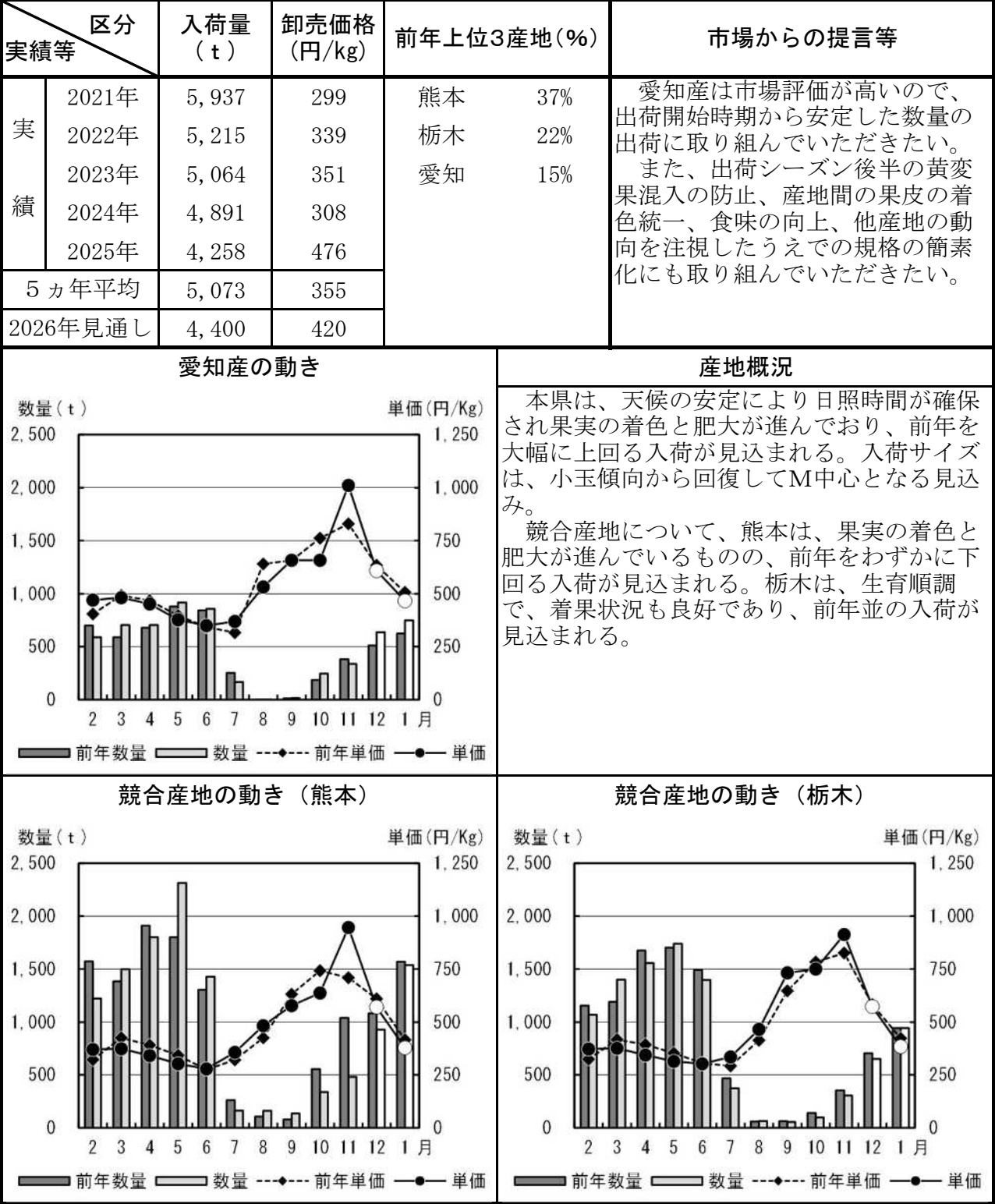
本県4産地、千葉県1産地、神奈川県1産地の入荷物を調査しました。調査した中ではクレーム対象となるものは確認されず、総合的にみて、玉揃い、ボリューム、外葉等の品質は安定していました。全体的には、外葉が若干多いのが目立ちました。

2回目の競合産地調査及び品質検討会は、本県産の入荷がピークとなり競合産地の春系の入荷量が急増する3月を前に行う予定です。

東京都中央卸売市場における 1 月の主要な愛知産青果物の動向

1 1月の見通し

品目名 トマト



2 入荷量・価格の動き

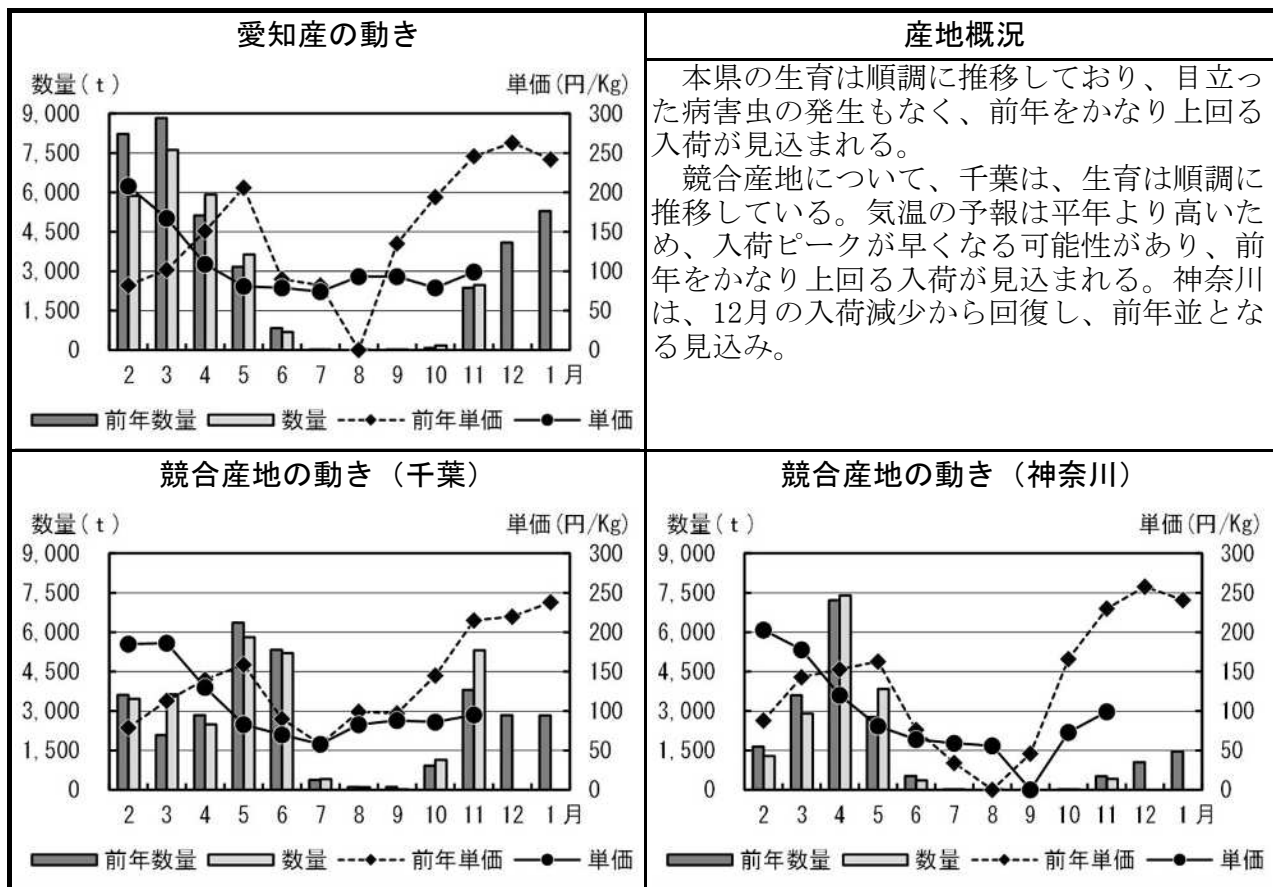
品目名 キャベツ

前年上位3産地(%)

愛知 51%

千葉 27%

神奈川 14%



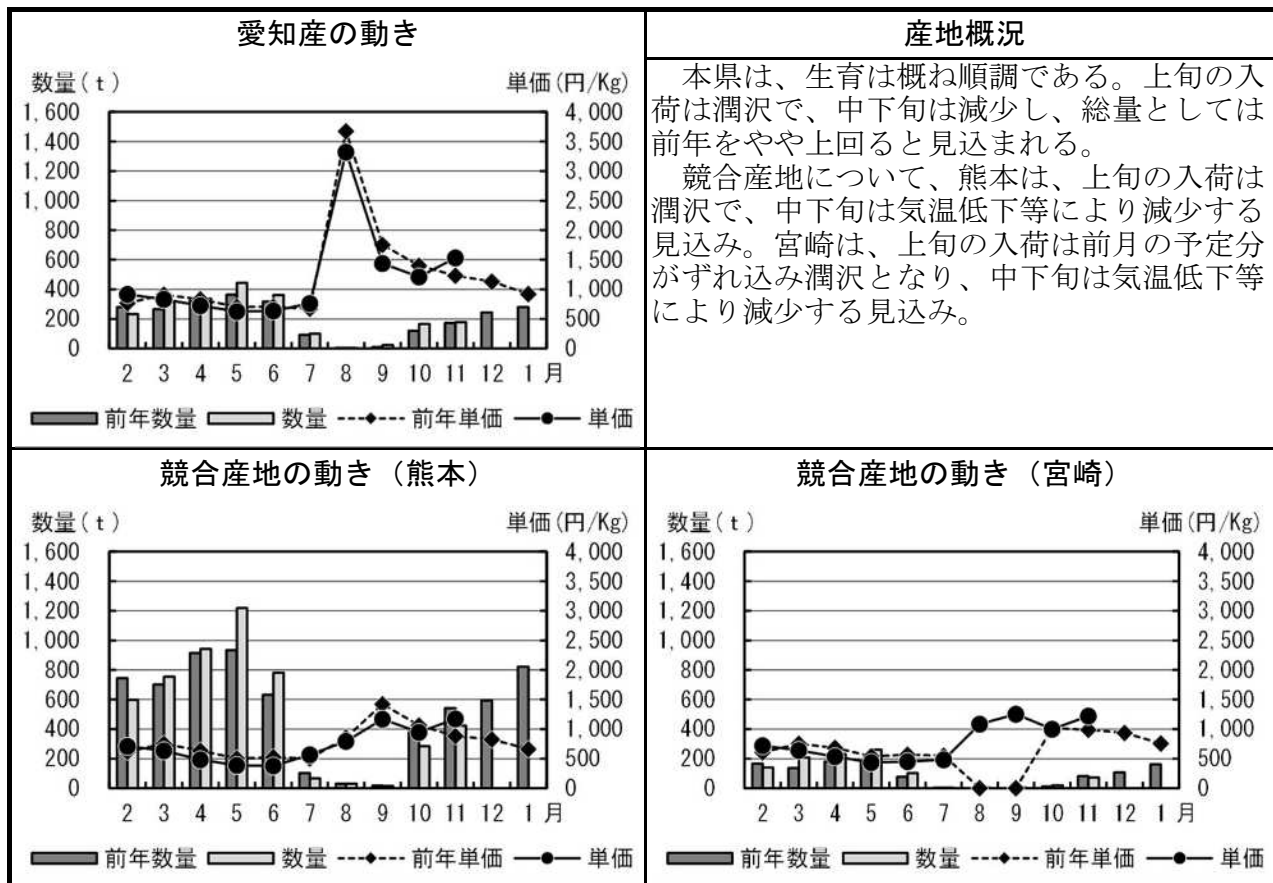
品目名 ミニトマト

前年上位3産地(%)

熊本 48%

愛知 16%

宮崎 9%



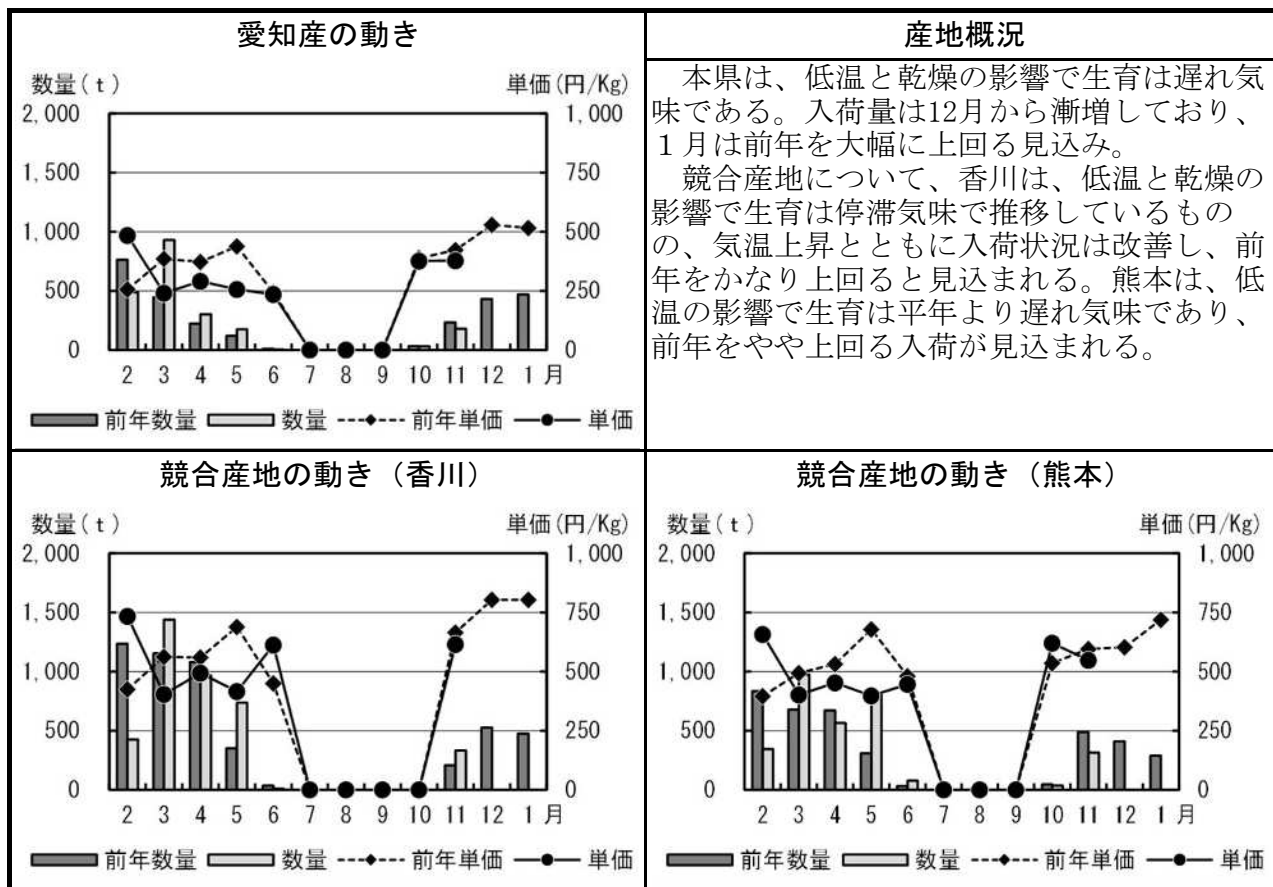
品目名 ブロッコリー

前年上位3産地(%)

香川 22%

愛知 22%

熊本 13%



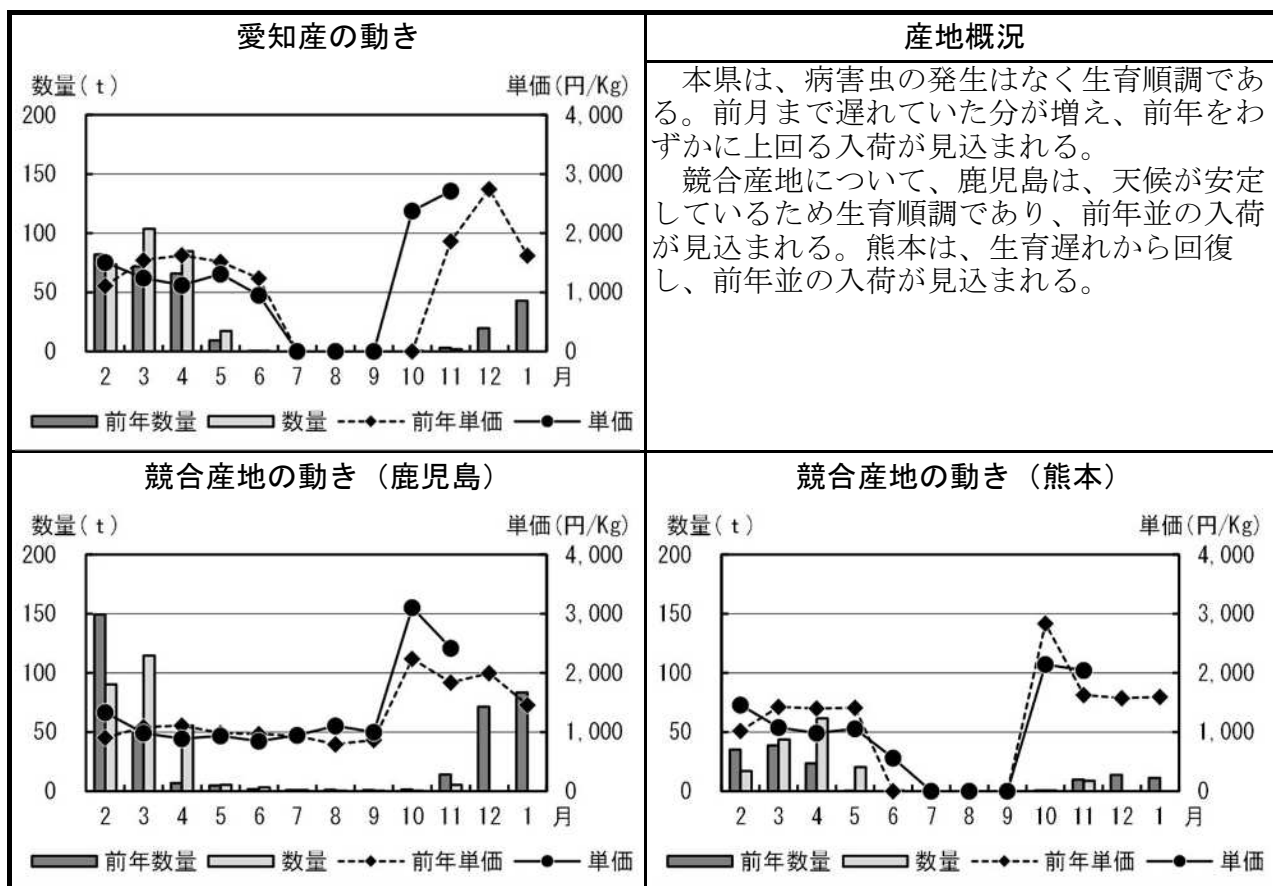
品目名 さやえんどう

前年上位3産地(%)

鹿児島 49%

愛知 25%

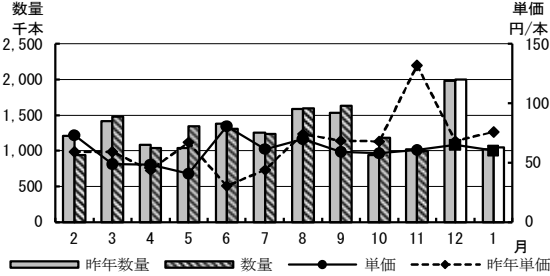
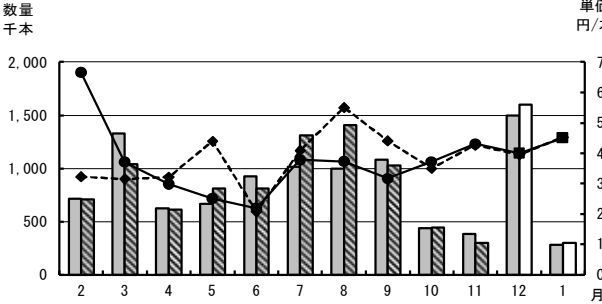
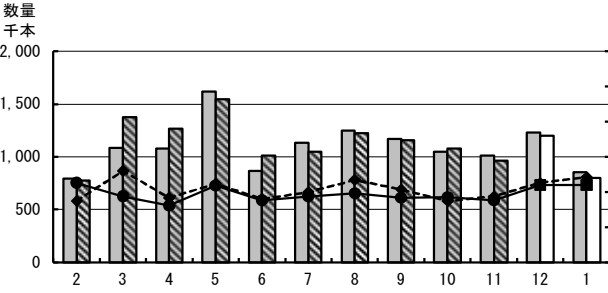
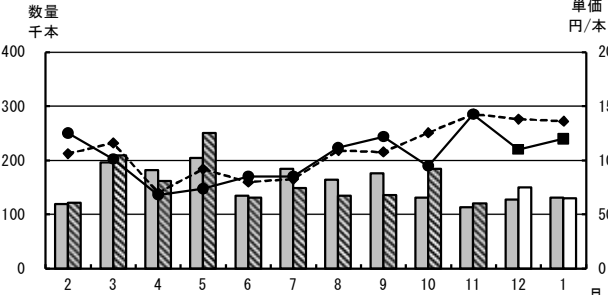
熊本 6%



切花・鉢花の1月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 1月5日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ く	実績	2021年	1, 2 2 2	3 3	
		2022年	1, 1 1 1	5 5	
		2023年	1, 3 2 4	5 3	
		2024年	1, 0 4 2	5 3	
		2025年	1, 0 2 6	7 6	
	5ヵ年平均	1, 1 4 5	5 3		
	2026年見通し	1, 0 5 0	6 0		
概要	愛知中心の入荷となる。上旬は入荷量が少ないものの、中下旬は徐々に入荷が安定してくる見込み。業務需要の動きにより、上位等級を中心に価格は高く推移する見込み。				
小 ぎ く	実績	2021年	5 4 2	3 2	
		2022年	6 4 1	2 7	
		2023年	5 2 8	4 2	
		2024年	5 0 9	3 1	
		2025年	2 8 2	4 5	
	5ヵ年平均	5 0 0	3 4		
	2026年見通し	3 0 0	4 5		
概要	沖縄中心の入荷となる。上旬は入荷量が少なく推移するものの、中旬以降は徐々に安定する見込み。ただし、全体的に数量は多くなく、出回り量も多くないため、価格は高めで推移することが見込まれる。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2021年	7 3 5	3 5	
		2022年	7 6 4	5 0	
		2023年	7 8 8	5 9	
		2024年	8 4 1	4 0	
		2025年	8 5 5	6 0	
	5ヵ年平均	7 9 7	4 9		
	2026年見通し	8 0 0	5 5		
概要	愛知、輸入中心の入荷となる。輸入商材は引き続き円安の影響を受けており、国産は昨年並みであることから、入荷量はやや少なめとなる見込み。				
か す み そ う	実績	2021年	1 1 8	7 6	
		2022年	1 2 3	1 0 6	
		2023年	1 4 0	9 4	
		2024年	1 5 0	7 8	
		2025年	1 3 1	1 3 6	
	5ヵ年平均	1 3 2	9 8		
	2026年見通し	1 3 0	1 2 0		
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷となる。前進気味の出荷物は、12月下旬に硬めの切前で無理な出荷が行われたため、上中旬は少なめの入荷となる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ゆり	実績	2021年	1 6 9	1 7 9	
		2022年	1 7 8	2 2 1	
		2023年	1 8 0	2 3 6	
		2024年	1 6 9	1 9 9	
		2025年	1 7 6	2 7 4	
	5カ年平均		1 7 4	2 2 2	
	2026年見通し		1 7 0	2 4 0	
	概要	オリエンタルユリは高知、宮崎、埼玉、愛知などから、鉄砲ユリは高知、鹿児島から、LAユリは埼玉、高知からの入荷となる。各種ユリは生産量の減少により、年明けは落ち着いた入荷となる見込み。			
洋らん	実績	2021年	2 7 4	7 8	
		2022年	2 6 3	1 1 0	
		2023年	2 4 3	1 3 8	
		2024年	2 5 7	1 0 4	
		2025年	2 7 8	1 6 7	
	5カ年平均		2 6 3	1 1 9	
	2026年見通し		2 7 0	1 5 0	
	概要	高知、徳島、愛知、静岡などの国産に加え、輸入品が入荷となる。オンシジウムは入荷が減少しているが、徐々に増加する見込み。デンファレは例年並みで、徐々に増加する見込み。シンビジウムは国内産に遅れがあり、多少増加する見込み。コショウランは輸入は潤沢な状況にあるが、国内産は引き続き品薄となる見込み。カトレアは出荷遅れがあり、今後は徐々に増加する。			
ばら	実績	2021年	4 1 0	7 8	
		2022年	4 6 2	9 9	
		2023年	5 2 0	1 0 0	
		2024年	5 2 2	9 9	
		2025年	6 1 1	1 0 1	
	5カ年平均		5 0 5	9 6	
	2026年見通し		5 5 0	1 0 0	
	概要	愛知、岐阜、三重、輸入中心の入荷となる。例年並みの入荷となる見込み。上旬は成人式需要により、染めバラの注文が一般化してきている。			
枝ももの	実績	2021年	8 1 2	5 1	
		2022年	1, 1 1 0	5 4	
		2023年	9 2 1	6 6	
		2024年	9 0 7	5 6	
		2025年	1, 0 0 2	6 5	
	5カ年平均		9 5 0	5 9	
	2026年見通し		9 5 0	6 0	
	概要	例年どおり、コデマリ、桃、レンギョウ、山州などの出荷が徐々に始まる。春節は2月17日であることから、20日頃から旧正月向け輸出が増加する一方、国内の動きは月末に向けて鈍化する見込み。			

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
エ リ カ	実績	2021年	9, 4 8 8	1 7 6
		2022年	7, 6 7 2	2 4 8
		2023年	5, 8 6 2	2 8 3
		2024年	5, 9 8 0	3 0 0
		2025年	5, 6 2 1	2 3 7
	5ヵ年平均	6, 9 2 5	2 4 1	
	2026年見通し	5, 3 0 0	2 2 0	
		<p>入荷量は、前年同様に猛暑の影響によりロスが多く、減少する見込み。鉢サイズは、3.5号～4号が中心であり、手頃な価格帯の引き合いが強まる見込み。全体市況は、年始の好相場がつく月初から、寒さが厳しくなる月末に向けて弱含みで推移する見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位山梨（45.3%）、2位愛知（18.4%）、3位新潟（16.0%）となっている。</p>		
プ リ ム ラ	実績	2021年	2 9 0, 7 5 3	1 0 4
		2022年	3 5 7, 6 7 6	9 6
		2023年	3 1 2, 3 7 6	9 9
		2024年	2 7 3, 4 6 0	1 0 4
		2025年	2 8 0, 0 0 9	1 2 0
	5ヵ年平均	3 0 2, 8 5 5	1 0 4	
	2026年見通し	2 7, 0 0 0	1 1 0	
		<p>入荷量は前年並かやや減少する見込み。出荷の中心は3～4号で、年内出荷の遅れから年明け直後は出荷量が増える可能性がある。一方、中旬以降に出荷予定の山上げしていない苗は猛暑の影響によりロスが多く、特にジュリアンは出荷量が減少する見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（33.2%）、2位埼玉（15.9%）、3位奈良（13.8%）となっている。</p>		
チ ュ ー リ ッ プ	実績	2021年	3 6, 8 0 0	2 0 8
		2022年	3 9, 6 9 2	2 3 3
		2023年	3 9, 2 4 2	1 9 6
		2024年	3 0, 4 2 0	2 1 5
		2025年	2 5, 4 2 7	1 8 6
	5ヵ年平均	3 4, 3 1 6	2 0 9	
	2026年見通し	2 3, 0 0 0	1 8 0	
		<p>入荷量は減少する見込み。球根代高騰もあり、前年同様1月は3号中心の芽出し出荷が主となり、その後は4号の出荷が増える見込み。球根代高騰で、注文単価は前年より多少上がる可能性はあるが、競売が厳しい予想の為、平均単価は前年より多少下がる見込み。今後は円安も重なり、球根代の高騰で生産量・出荷量が大幅に減少する見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（39.3%）、2位奈良（18.8%）、3位茨城（18.6%）となっている。</p>		

単位：鉢、円／鉢

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
サイネリ	実績	2021年	34,967	286	
		2022年	38,213	290	
		2023年	27,909	296	
		2024年	19,659	340	
		2025年	21,260	331	
	5ヵ年平均		28,402	303	
	2026年見通し		21,000	333	
ア	概要	<p>入荷量は4号、5号については前年よりやや減少する見込み。開花は品種や色により一部遅れが生じる可能性があるものの、全体としては順調な出荷となる見込み。愛知産に限れば生産はやや微増する見込み。前年に続き、6号等の需要は厳しい見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（53.6%）、2位愛知（13.5%）、3位奈良（10.4%）となっている。</p>			
マーガレット	実績	2021年	30,759	217	
		2022年	39,139	240	
		2023年	33,688	257	
		2024年	27,994	261	
		2025年	26,885	312	
	5ヵ年平均		31,693	255	
	2026年見通し		26,000	315	
ト	概要	<p>入荷量は前年よりやや減少する見込み。上旬は品揃え需要により、前半は中値での推移が見込まれる。3.5号～5号中心の入荷となるため、中盤以降は特に5号以上が厳しい取引が予想される。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（22.0%）、2位埼玉（16.7%）、3位栃木（14.8%）となっている。</p>			
デンドロビウム	実績	2021年	13,085	617	
		2022年	11,882	709	
		2023年	8,881	687	
		2024年	7,581	649	
		2025年	8,197	711	
	5ヵ年平均		9,925	672	
	2026年見通し		8,500	700	
ウム	概要	<p>入荷量は前年より増加する見込み。年内出荷予定分の遅れが前半に多くなると見込まれるほか、小鉢ものを中心に引き合いが強くなる見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（47.0%）、2位岡山（29.8%）、3位高知（9.8%）となっている。</p>			



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.629
2026年1月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434